

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

それぞれの優勝旗

校長 磯部 裕之

「元気あふれる応援で 心を一つに優勝旗を勝ちとろう」

これが、今年度の運動会のスローガンでした。優勝旗は、勝負ですので、赤・青・黄のどこか1つ、勝ったチームに渡されます。「どのチームも、精いっぱい頑張ったからそれでいいんだよ」と大人の私たちは簡単に言いますが、この優勝旗目指して、約1ヵ月間、応援や競技の練習を重ねてきた子どもたちにとっては、この「優勝」というものが格別なものであるようです。

今年度の優勝の栄冠は、青組に輝きました。「おれたちが1年生の時に勝って以来、青組の優勝は久々なんだ」と6年生が運動会後に話していたそうです。確かに、優勝旗に付けられているペナントを確認すると、6年生が入学した年の令和3年度に青組が優勝しており、今回は、実に5年ぶりの優勝であったことが分かりました。確かに、私が猿橋小に校長として赴任して以来、青組の団長は、いつも悔し涙を流しながら、胸に刺さるようなしびれるコメントをいつも発表していた印象があります。毎回、子どもたちのまっすぐなコメントに胸を熱くする瞬間です。



「子どもたちの運動会って、こんなに感動するんですね」

来賓として、最後まで観戦してくださっていた町内会長さんがこんなことをおっしゃいました。特に、最後の高学年の大玉送りでは、子どもたちの必死に競技する姿に感激されました。そうなのです。私たちは、子どもたちが必死に取り組む姿、あきらめずに頑張る姿に「子どもたちってすごいなあ」と感激してしまうのです。

話は変わりますが、30年ほど前に、子育てをしながら見ていたテレビ番組で「いっとうしょう体操」という歌が流れていました。「いちばんすきなはいっとうしょう いちばんステキはいっとうしょう」「毎朝、ごはんをもりもりたべて、大きな声で『おはよう』言います」「それだけでいっとうしょう」とその歌は続きます。子どもたちが一生懸命頑張っているシーンを見ると、なぜか、毎回この歌が頭の中に流れてくるのです。

今日の運動会でも、必死になってゴールを目指す姿は多くの人に感動を与えてくれました。いろいろな事情で競技に出られなかった人、やっとの思いで応援団をやり切った人、緊張しながらも大きな声で得点発表してくれた人、一人一人にそれぞれのドラマがあったことと思います。そんな風に、精一杯今年の運動会に挑戦した子どもたちは、「それぞれの優勝旗」を手にしたはずです。この運動会が大きな自信と成長につながることでしょう。

運動会を安全に実施するために、今年もPTAの役員の皆様より、駐車禁止の看板立てやパトロール、競技後の等賞シール渡しや後片付けなど、全面的にご協力をいただきました。大変、ありがとうございました。これからも、夏に向かって、みんなで頑張っていきたいと思います。